



## 平成28年度栃木県養護教育研修会が開催されました

参加者 457名

日時 平成28年11月7日(月)

場所 栃木県総合文化センター大ホール

### 1 開 会

#### 2 会長あいさつ 増渕 正典 会長

2学期は学校行事が多く、養護教諭は気の抜けない時期だと思います。インフルエンザによる学級閉鎖も例年より早く報告されています。今年度より加わった運動器検診では、運動のしすぎによる体のゆがみなどの課題も出てきています。学校医に適切な情報を提供することが大切です。保健調査等、次年度につなげていければと考えます。

関東甲信越学校保健大会では運営等に協力いただき、良い大会にすることができました。ご協力に感謝します。

#### 3 来賓あいさつ 栃木県教育委員会事務局健康福利課主幹兼課長補佐 広山 美智子 様

関東甲信越学校保健大会では、たくさんの先生方にご協力いただき、ありがとうございました。

学校では、アレルギー対策、心的ストレスへの心のケアなどきめ細やかな対応が必要です。養護教諭の先生方には、コーディネーターとしての役割が求められます。また、養護教諭は学校保健の中核を担っています。運動器健診の導入、座高の測定がなくなるなど大きな変化がありました。これまで以上に学校医との連携し、組織的、計画的に健康診断を実施していく必要があります。

また、今年度はインフルエンザによる休業報告が11件となっています。感染症システムを活用し、予防に取り組んで欲しいと思います。

### 4 講 話「学校保健の現況について」

講師 栃木県教育委員会事務局保健給食担当指導主事 大森 和枝 様

#### ○ 児童生徒の健康診断について

##### ・四肢の状態の検査について

学校医と、事後の対応について帆話し合いを事前に持ち、校種や規模に合わせて対応できるようにして欲しいです。また、日常の観察をどのように行うかについては、各学校で組織的対応をお願いします。成長曲線の活用については、来年度に研修を開催する予定になっています。

##### ・色覚検査について

学校医と相談し、養護教諭がスクリーニングすることも伝えてください。健康診断票の記入についても、保護者の同意を得ることが必要です。

#### ○ 学校環境衛生検査について

日常点検を児童生徒に実施させる場合は、任せきりにしないでください。特に、飲料水についてはきちんと対応する必要があります。風水害等の臨時検査が必要になる場合の対応を薬剤師の先生と話しておくことも大切です。

#### ○ 脳脊髄液減少症及び子宮頸がんワクチン接種に関したと思われる症状について

県のホームページに掲載します。

#### ○ 今期の学校におけるインフルエンザ対応状況について

流行が早まっているので、対応の徹底を図ってください。

#### ○ その他

学校保健計画については、歯の衛生週間を歯と口の健康週間へ名称変更されているので見直しを図り、学校三師に計画を知らせることが必要です。また、学校医の仕事を保護者や子どもにお知らせして、学校保健でもチーム学校として連携することも大切です。



## 5 研究発表

### ① 「児童生徒の健康レベルアップをめざして

～関係機関との連携を生かした学校保健の充実～

発表者 大田原市立金田北中学校 吉沢 幸子 先生  
大田原市立芝塚小学校 増村 純子 先生

平成 25 年度より取り組んでいる実践発表です。大人になった時に健康で充実した生活を送ることができるように、小中学生の時期に身に付けさせたいことを段階を踏んで取り組みました。保健師、管理栄養士、健康運動指導士との連携、健康アップ手帳の作成と活用など養護教諭ならではの実践をしました。



### ② 「特別支援における健康診断の工夫」

発表者 栃木県立岡本特別支援学校 今井 理恵子 先生  
栃木県立豊学校 菅谷 晃子 先生

盲学校、聾学校、富屋特別支援学校、岡本特別支援のそれぞれの特徴を踏まえ、各校で工夫して取り組まれている健康診断についての発表です。実際の学校や検診の様子、健康診断の事前指導の資料の活用を紹介しました。

## 6 報告「全国養護教諭研究大会」

発表者 市貝町立市貝中学校 田崎 和子 先生



心身の不調による来室者の増加という課題に対して、学校全体で取り組みました。保健室経営計画に基づき、A) 日常における心身の健康問題の把握と教職員との連携、B) アンケート等の活用と関係機関との連携、C) 保護者との連携について具体的に取り組みました。

**養護教諭が保健室経営計画を通して健康課題を解決していく実践が理路整然と説明され、大変、参考になりました。**

## 7 内地留学報告

### ① 「医療機関との連携と養護教諭の役割

－通常学級で疾患を持つ生徒の（支援に迷う場面）の対応を中心に－

発表者 宇都宮市立泉が丘中学校 岩田 牧子 先生

医療機関との連携で支援に迷う場面を少なくするために、連携のツールと養護教諭の役割についての発表です。学校と医療機関との支援の解離や担任から病院への関わりの困難さや学校医の連携について分析し、情報の活用や配慮について考察しました。同じ目標、目的で信頼関係を築き連携していくことが必要です。

### ② 「思春期におけるレジリエンスの高低と愛着スタイルの関係について

－レジリエンスの低い人に向けてのアプローチを中心に－

発表者 足利市立協和中学校 伊賀 智子 先生

レジリエンスの高低と愛着スタイルの関係について考察し、レジリエンスの構成要素や子どものレジリエンスのサポートなどについての発表です。また、レジリエンスを高めるために養護教諭が保健室でできる技法をまとめました。



**豊富な研究内容を、短い時間で、発表していただき、ありがとうございました。**

## 8 講演「心をほぐす会話術～保健室でどう話す?～」

講師 フリーアナウンサー 東京成徳大学客員講師 梶原 しげる先生

皆さん、ほぐすという漢字を書けますか? 「解す」と書かずにね。皆さんの仕事は、態度と言葉で解していくことになります。言葉でしか癒やすことができません。

「紅葉狩り」「蛍狩り」などわかっているようでわかっていない言葉があります。その言葉を人はどのように感じるか、言葉に無頓着な人にならないようにしないとけません。

**途中、首まわし、肩まわしのリラクゼーション。じゃんけん勝負で、負けた人が損をしたかと思いきや、負けた三人はたくさんの人と出会い、言葉を交わすことができ、しかも梶原先生の御著書をいただけるという幸運がありました。**



『国語に関する世論調査』では、ら抜き言葉を使う人が多数派になるなど言葉の揺れが見られます。「上や下への」は「上を下への」など、慣用句の誤用があります。「微妙」は、10代の方は9割が否定として使っています。「役不足」は、本来は謙遜で使うが主流になっているが、本来は不満を訴える言葉です。

**「キラキラネームから学ぶ固定概念からの脱却」「揺れまくる四股名」のあれこれを紹介。**

どんな場面で言葉の大切さを感じますか? トップは地域や職場で気持ちよく挨拶した時となっています。会社に来る配達の人にどんな言葉をかけることが多いですか? 10年前は「ご苦労様でした」ですが、今は「ありがとうございます」になっています。「気遣いの言葉」が大事な時代です。

**二人一組で傾聴訓練「あなたの名前の由来を教えてください」**



スタッフ同士のコミュニケーション（先生同士のコミュニケーションも一緒です）は、「○○さん」と呼び合い、丁寧な言葉で話し、お互いに感謝を伝え合うのが10点満点です。ぶっちゃけのため口は、絶対NGです。

話すコツは、一歩前へ相手に近づく、相手をきちんと見る、笑顔で言う、相手に聞こえる声で話すです。

○質問1 日光市立鬼怒川小学校 大島由子先生より

保健室に来た子どもの名前がわからない時の話しかけ方があれば教えて欲しい。

回答

「名前、何だっけ?」といきなり聞く。名前は忘れても場面は忘れないと思うので、前の時との違いを言う。次に会った時は、前回の続きから話し始めるという方法もあります。

○質問2 鹿沼市立北小学校 中村直子先生より

『話すコツ』のスライドをもう一度見せて欲しい。

回答

キャスト同士がなれ合いで話をしたらダメです。常に見られていることを意識して、バックヤードも確かなものにする。

## 9 閉会

今回の研修会では、下都賀地区が当番地区でした。朝早くから閉会後の会場片付けまでご協力いただき、ありがとうございました。

